

令和8年度

内町小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・対話的に学び、たくましくしなやかに生きる子どもの育成
互いを認め合い、磨き合い、高め合う授業の工夫

校長

三木 崇生

学力向上推進員

阿部 亜希子

【各校の取組状況の把握について】

校内研修、管理職による授業参観、教員間での情報交換等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習内容を概ね理解し、基礎・基本の力は身につけてきている。また約93%の児童が授業がよく分かるかと答えている。</p> <p>○約94%の児童が、意欲的にタブレットを使った学習に取り組んでいる。</p> <p>●学力が二極化している。</p> <p>●身につけた知識・技能を、他の学習の場面で結びつけて考えたり、活用したりすることに課題がある。</p>	<p>・ICTを効果的に活用しながら、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。</p> <p>・個々の学習課題に対して、粘り強く取り組むことができる。</p> <p>・身につけた知識・技能を、他の学習の場面で結びつけて考えたり、活用したりすることができる。</p>	<p>・ミライシードや教科書のQRコード等を活用し、個々の習得状況に応じた学習に取り組ませる。</p> <p>・漢字や習熟プリント、ドリル等の直しを確実にさせることで、できる喜びを実感させる。</p> <p>・普段から教師が違う視点から話したり、児童に考えさせたりすることで、他の見方はできないか等、様々な視点から考える習慣をつける。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自他の考えの共通点や相違点に気付いたり、自分の考えを広げたり深めたりできるようになってきた。</p> <p>○●約86%の児童が、根拠や理由を意識しながら、自分の考えをもつことに積極的である。反面、自分の意見や考えをまとめ、伝えることができていると答える児童は69%である。</p> <p>●資料をもとに読み取ったり粘り強く考えたりすることが苦手な児童が多い。</p>	<p>・ICTを活用し、自分の考えをまとめ、他者の意見を参考にしながら、考えを広げ深めることができる。</p> <p>・根拠や理由を意識しながら自分の意見を伝えることができる。</p> <p>・資料から必要な情報を読み取り、学習や自分の考えに活用することができる。</p>	<p>・ロイノートや思考ツール等を活用し、自分の考えを整理させ、様々な学習形態でやりとりしながら自分の考えを再構築できるようにする。</p> <p>・根拠を述べる発問をする機会を多くすることで、根拠や理由を発表する習慣をつける。</p> <p>・目的意識をしっかりともち資料を読ませ、グラフや表などは全体を見たり部分に目を向けたりと、必要に応じた見方ができるようにする。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。</p> <p>●読書をよくすると答える児童は63%であり、読書時間が少ない。</p> <p>○●振り返りを行うことで、自分の理解状況を客観的に捉えることができるようになってきたが、見えてきた課題が次時に生かしていない。</p>	<p>・授業や家庭学習に主体的に取り組むことができる。</p> <p>・読書の楽しさや意義を実感し、進んで本を読むことができる。</p> <p>・振り返りを生かし、見えてきた課題に対して、それを克服するために努力することができる。</p>	<p>・場面設定や課題の提示を工夫したり、児童の気付きを価値づけたりすることにより、児童が学ぶ楽しさや分かる喜びを感じ、主体的に取り組めるような授業を展開する。</p> <p>・読書をする時間を確保したり、並行読書や読み聞かせ、児童相互の本の紹介などを取り入れたりと、様々な分野の本に興味をもたせる。</p> <p>・自分の得意・不得意を把握させ、苦手分野を克服するための自主学習に取り組ませる。</p>			